

## 西宮版総合戦略に係る有識者会議

日 時	令和元年 11 月 22 日（金）午前 10 時～12 時
場 所	西宮市役所東館 701 会議室
出席委員	角野委員、金居委員、花城委員、廣田委員、宮内委員
（代理出席）	兵庫県阪神南県民センター県民交流室 喜多次長
事務局	太田政策局長、楠本政策総括室長、堀越政策推進課長、部谷産業部長、奥村商工課長、岸本都市ブランド発信課長、菅沼大学連携課長ほか
会議の公開	公開
審議等議題	第 1 期（平成 27～令和元年度）西宮版総合戦略の進捗状況の検証 第 2 期（令和 2 年度以降）の取組みについて

（主な意見）

### ■第 1 期（平成 27～令和元年度）西宮版総合戦略の進捗状況の検証

- ・市で行う事業を指標の中心にするだけでなく、西宮市の場合は県の文化事業がたくさん入り込んでいるため、それらを指標に取り入れても良いと思う。
- ・施設の入館者数は頭打ちの状況にあり、外でどれだけ広がるのかという、アウトリーチが大きな指標であるとともに、取組みのポイントとなっている。いかに外に出ていくのかということは、今後の重要な視点である。
- ・転出入状況では、平成 30 年の国外について、300 人を超える転入超過となっており、外国人を対象としたサービスを考えていく必要があるのではないか。
- ・ことづくりの流行りは体験であり、市内ではすでに和紙の紙すき体験が実施されているが、今後は西宮の特徴を生かし、こういった取組みを進めるべきだ。
- ・ことづくりは様々な展開が可能であるが、そのこと自体がダイレクトにブランディングに影響するし、新しい仕事の展開にも繋がる。また、住民の楽しみも増える。
- ・将来、西宮の特産やブランドを世界的に出していくためには、学生から人を育てていくことが必要であり、西宮でしか学べないことを増やしていけば、学生が集まってくるのではないかと思う。
- ・大学と一緒にあって、将来西宮で就職できるように考えていかないと他府県に流出してしまう。
- ・県立芸術文化センターを活用して、西宮も演劇のまちとして取組みを進めれば人が集まってくるのではないか。

### ■第 2 期（令和 2 年度以降）の取組みについて

- ・産業支援や都市ブランドに関する施策は、地域がキーワードとなっているが、そこにいる人が実施しないと上手くいかない。地域にいて、取りまとめができる人を育てる仕掛けが必要である。
- ・市外の方々が、西宮のイメージを捉えるときは、市内のある特定のエリアを思い浮かべることが多い。人々が思い浮かべる西宮のイメージと、今まで西宮が築き上げてきた都市ブランドとの整合性を考えると、西宮のイメージを発信する際、地域ご

とのイメージをどのように売り出すか、ということは大きな課題となる。

- ・暮らしやすい安全なまちの観点から、防災・減災はブランドの1つとなりうるものであり、そういった要素を総合戦略に取り入れるのも良いのではないか。
- ・安全・安心は居住者にとって重要な指標であると思う。市民感覚でまちを評価する際に、安全・安心は基本中の基本となるものであり、何らかのかたちで総合戦略に取り入れても良いのではないか。
- ・団地の再生は、まちのブランディングに関わるものであり、リニューアルにあたっては、まちのイメージアップに繋がるよう、指針を示すなど、市が発信していくべきである。
- ・市内で人気のあるエリアとそうでないエリアでは、空き家率が変わってくると思う。空き家が多ければ、安全・安心が維持できないため、空き家率は安全・安心を把握する1つの指標となりうるのではないか。
- ・今後は特に郊外の分譲の戸建て住宅地でも様々な課題が出てくるのがはっきりしている。高齢化が進み、子供世代がそこに住んでくれない、ということは、西宮の北部であれば間違いなく出てくる。文教住宅都市というからには、どういう住宅政策が先進的に実施できているのかが、周りからは注目されるであろう。
- ・神戸市は西宮市と同じような地域であり、神戸市からの転入も多いため、連携して住宅政策に取り組むべきだと感じた。
- ・既存の就労支援のネットワークにかからないが、家庭の事業等で普通の就業が難しい方へのフォローアップが、今後課題として更に大きくなると認識している。生活困窮者自立支援事業では、複数の項目から事業を具体化することが可能であるため、市でも事業の具体化を検討してもらいたい。
- ・高齢者の雇用について、シルバー人材センターの方は元々働いていた方であり、スキルを持っているはずである。溶接技能やお菓子作りの技能などを生かせれば、様々な企業から要請があるのではないか。
- ・西宮市では、大学生と企業とのマッチングを行っているが、新卒ばかりではなく、第二新卒の支援も行ってほしい。
- ・加西市は中学生の企業見学の取組みを行っており、その取組みを通して、中学生は地元企業のことを知り、東京で働いた後、地元に戻ってくるケースが増えていると聞いている。
- ・学校の教育環境の整備について、文部科学省の指針でも授業に新聞を活用すべきとあるように、図書室に新聞を設置してもらいたい。教科書ではなかなか教えきれない現代の社会の動きを、新聞で補うことができる。
- ・今までの5年と、次の5年で社会の状況が根本的に変わっていく部分もたくさんある。新たなテーマとして国はSDGsやSociety5.0を提案しているが、それらが次の5年の中に具体的にどういう形で施策につながっていくのかが、見えない部分がある。過去5年の中でも、人口減少の問題、高齢化の問題、地域間格差の問題など、様々な問題があったが、それらが次の5年の中で、どう施策として展開できるのか、あるいは変更しなければならないのかについての確認をしっかりと行ってもらいたい。今回の2つの議題を見たときに、もう少しそういった視点で検討いただければ

と感じた。

- ICT や IT は、教育の面で取り入れることができると思う。建設機械関係ではすでに取り入れられており、他にも様々な面で活用することができる。
- 中核市で人口が多いため、住民の要請は多岐に渡るかと思うが、新しいアイデアを入れる仕掛けを作ってもらいたい。また、それらを速やかに実行していく方法を検討してもらいたい。
- 高齢者や障害のある人の就労を、通常の労働分野の問題と分けるのは仕方ない面もあるが、色んな問題に対応できるような政策的なアプローチが必要であると感じる。既存の就労支援の狭間で悩まれている方がたくさんいるので、生活困窮者自立支援事業だけではなく、様々な施策を複合的に実施し、フォローしてもらいたい。
- 人口減少の歯止めがきかない状況にあり、元気な地域をどう作っていくのかが大きな課題であると感じる。地域が元気になるためには、若者の流出を止め、女性が働ける環境を整備する必要がある。また、都会に出た方が戻ってくる流れづくりも必要である。
- 基本目標（3）の都市ブランド発信強化は取り組みやすいと思う。来年の成人式は甲子園球場で行うとのことだが、新聞等を活用しながらそのことを発信していくことができると思う。成人式を甲子園で行いたいと思う若い方が西宮に住み始めるかもしれないし、若い子育て世帯への支援を手厚くすることで更に集まってくるのではないかな。